笹下城（ささげじょう）

笹下5丁目

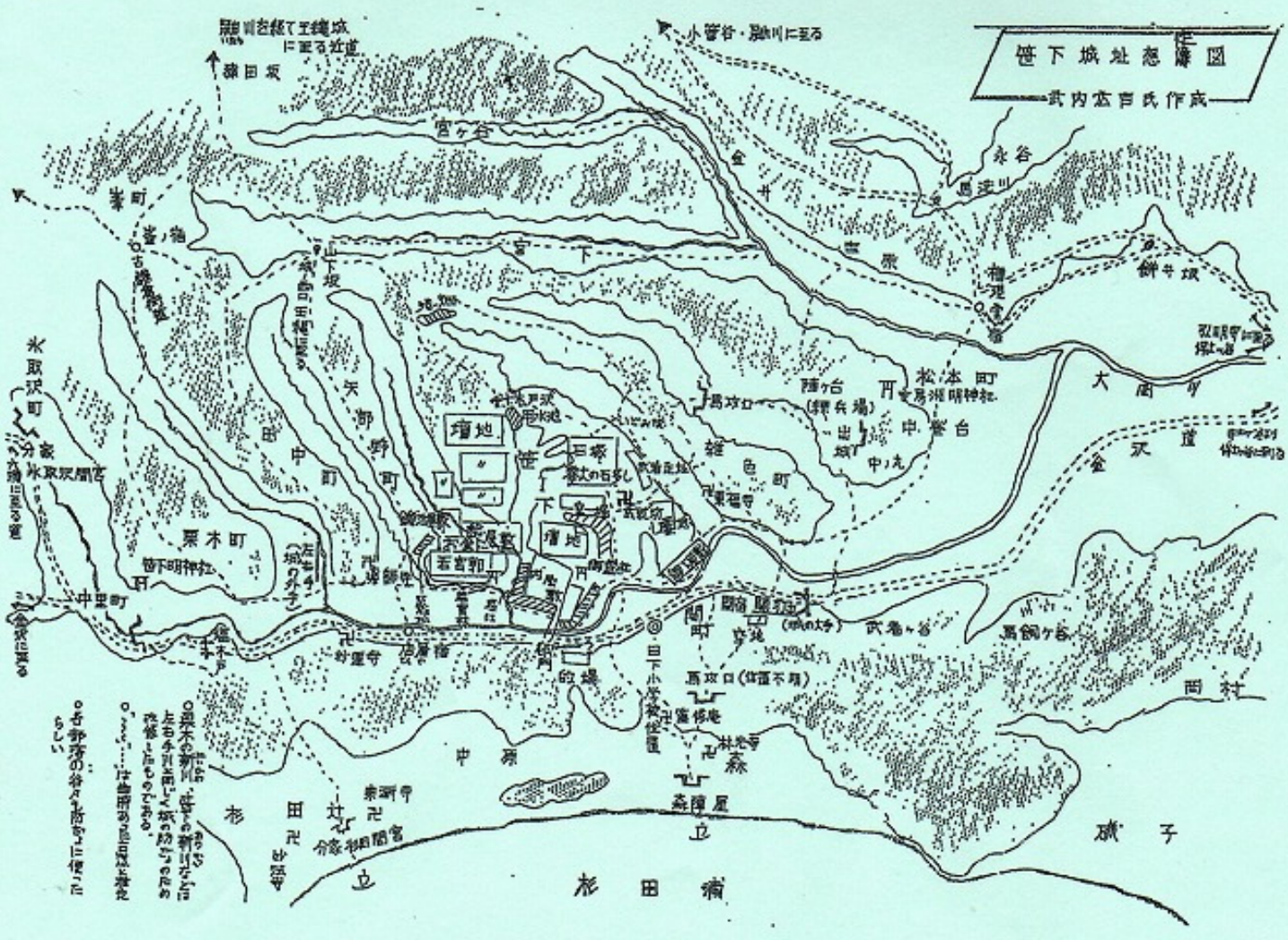
笹下城は室町時代、杉本（現　笹下５丁目）に北見掃部が城砦を設け、戦国時代に実践用の城として、間宮一族が笹下城を築き、下っては江戸時代初期に代官屋敷兼政庁としての役割を果たした。

又、この近くには出城としての松本城（現　中登台）もあったとされている。笹下城は成就院付近の高台を中心として築かれた城であり、築いたのは小田原北条氏家臣の間宮豊前守信元と言われている。

古くは篠筍城とも佐々木城とも呼ばれ、この近くには、空堀、水堀、犬走りの痕があり。北には日野川、東に笹下川、南に笹下川支流が巡らされ、西側には険しい山があり、このような自然の地形を利用するのを「谷津構え」の山城と呼んだ。

間宮信元は笹下城以外にも、杉田陣屋、森陣屋、氷取沢陣屋、更には中登台に松本城を築き兵力を巡らせた。

時代が下がって、豊臣秀吉の天下統一により小田原北条氏は滅ぼされた。しかしこの間、間宮一族が箱根の山中城を守った戦い振りがあまりにも見事だった為、攻撃側の徳川家康は笹下に残っていた間宮氏の中から多くの者を家臣として取り立てた。

後の世にその一族から、間宮海峡を発見した間宮林蔵、オランダ医学を初めて我国に移入した杉田玄白のような優秀な人物を輩出することになった。

笹下城全図